

# MY COLOR

Vol.1

きらっと\*とよかわっ! 輝くひと

さまざまな分野で活躍する豊川市出身のトップランナーを紹介します



絵本製作のために描いた絵は50枚超。「やるなら、美術界で認められるレベルを目指す」と語る。

## 子ども時代の思い出が詰まった ノスタルジックな豊川の町並みが好き

〈映画監督〉園子温さん

常に人々を驚かせる作品を発表し、「鬼才」と称される園子温監督。加えて、映画関係者からは、「次回作がもっとも期待される監督」ともいわれています。今年公開予定の「新宿スワン」「ラブ&ピース」などは、既に大きな話題となっていて、今まさに乗りに乗っている映画監督です。

園監督は、豊川稲荷に近い豊川仲町の生まれ。子どもの頃は、豊川稲荷やその門前周辺が遊び場だった。「門前」にある古いお店を、勝手に怪しいと決め付けて盛り上がりがあったり、三明公園のロケット型ジャングルジムに興奮したりした「想像力豊かな子どもであったらしい」。両親や先生から叱られるばかりの、かなりの問題

児であったが、「家には図書館のように本があったおかげで、映像や文学などに早くから触れる機会があったのはよかった」と言う。十七歳のときには、自由を求めて東京へ。当初は漫画家を目指すも、やがて自主制作映画を撮り始める。平成十三年以降は、メジャーな映画会社とも手を結んで作品を手がけ、海外で数々の賞を受賞、現在に至る。

園監督の作品は、ふるさと・豊川が舞台になることが多い。これは、「ルーツとして自分の中に豊川は根深く存在しているし、たいせつな源泉として豊川を意識している」から。豊川稲荷門前の町並みは、「ノスタルジックで、あそこまで日本らしい通りはめずらしい。とても美しく、映画の撮

影には適している」との理由で、作品には欠かせない場所の一つになっている。

新たな挑戦として、今、夏に公開予定の映画「ラブ&ピース」を題材とした絵本の製作に取り組んでいる。合わせて今年、詩集や小説を発表したり、劇団や音楽活動もしたいと考えている。このマルチな創作力が、「鬼才」といわれる理由かもしれない。

そんな園監督には、おもしろい企画があるそう。豊川の人は夜になるとみんなキツネになるといってファンタジー映画。でも、豊川稲荷のキツネに、この企画をやっていいか聞いてみないといけないですね(笑) 園監督は、遠く離れた今も、豊川市を思い続けている。

### 園子温 (そのしおん)

豊川小学校、豊川東部中学校、豊橋東高校を卒業。ベルリン国際映画祭フォーラム部門ガリガリ賞・国際批評家連盟賞など、海外でさまざまな賞を受賞。代表作は「愛のむきだし」「ヒミズ」。53歳。